
零のクライシス

神風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

零のクライシス

【Nコード】

N0651C

【作者名】

神凧

【あらすじ】

異世界だけど現実な異曲の音。「決定的に足りないもの」と「絶対的に変わらないもの」が解ってない主人公へ、ちよつとした警鐘のお話、です。

あれ？

笑うように

笑うように

笑うように

笑うように 殺せ。

ぱち、つと。

「……………んん……………」

今日もまたつまらない日が重なって行くのだろうか。

そうだろう。

今日が来たのだから。

僕はそこまで思想を巡らせたところでやっと異変に気がつくことになる。

目が覚めた。

目が覚めた、はずだった。

いつもと変わらぬ天井が目前に広がっている、はずだった。

今日も一日ほどほどに行くぞ、おー！とやるせなく誓いを立て平凡な日常に馴染んでゆく、

はずだった。

あれ？

あれ？

なんかおかしいぞ。

なんか犯しいぞ。

だって。

だって可笑しい、だろ？

こんなこと、在り得ない、だろ？

僕は視力を失ったのだろうか。いや、そんな。不便極まりないぞ。

これじゃあ慣れるまで一人で行動できないじゃないか。食事も満足にできない。

いや、今考えるべき事はそんな平和なものじゃないだろう。

まず、「自分は見えて、周りは白一色」とは。

この状態じゃ視力は失っていないが、そんな安心より先に解決したい事柄があつた。

此処は何処だ？

と言うか、視力云々より先に考えないといけない問題なのは明らかだろう。

きつと寝ぼけていたんだ、うん。納得。

そろそろ真面目に考えよう。

だが真面目に考えるにしても、事実が、資料が、足りなさすぎる。

僕は朝起きて、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・、

それだけだった。

ちくしょう、駄目だ。もう一度寝たら元に戻るだろう。此処は夢だ、断じて。たぶん。

そんな馬鹿馬鹿しい思考を繰り返す僕に、声が掛けられるのは予想外だった。

「あんたさあ、誰？」

はい？

急に声を掛けられびくっとして横を向くと、白い空間の中に自分ともう一人、少し大きめのナイフを持ったやや長い黒髪の女の子が居た。

人。人間だった。人？人間なのだろうか？いや、人間に決まってるだろ。何を言ってるんだ僕は。

つて、え、なんでナイフ？

疑問に思ったが別に僕を傷つける目的では無さそうなので気にしないことにする。

「あたしの質問聞いてた？誰つつてんだけど」

僕は心底うざそうな目つきで僕を見下している（勿論これは僕が胡座をかいているからで、けして女の子の方が背が高かったからではない）女の子に質問されて居ることに気付き、答えた。

「・・・誰って言われても」

「名前」

ああ。

「速木異曲。速度の速に木って書いてはやさき、異なる曲でいきよくだ」

「変な名前え。どうでもいいや」
なら聞くな。

と言つかそつちこそ誰なんだ。名前を訊くのなら最初に自分の名前を言うのがマナーだろう。

やっぱり漫画とかだったら「私は王女のルナよ」とか出てくるんだろつなあとか思いつつ、禁忌な話題とは到底思えなかったので、率直に訊いてみた。

「きみは？」

「はあ？」

明らかに嫌がるんじゃないやねえよ。

「名前、教えてくれないのか？」

あごに手を当てて、理解できないという風に眉を寄せてこちらを凝視してくる。

宇宙人の発する言葉が分からないように。

理解するのに最低一分は必要だと言わんばかりに。

その子はやがて深くため息をついた後、呆れたように言う。

「何であんたに、教えなきゃなんない訳？」

「……………なんだかもう、絶句した。」

呆れるのはこつちだ。

まともな会話はあきらめた方が良さそうだったので、とりあえず適当に質問する。

「きみはこの世界……………っていつか『此処』を把握してるのかい？」
女の子はこくりと頷いたあと、はじけるような笑顔をみせた。

さつきまでの態度からは想像できない、子どもらしく元気な表情だったので少し戸惑う。

強いて言えば、可愛かった。

「絶対出られないけどね！」

前言撤回、悪魔かこいつ。

「うふふ。うふ、ふふふ。ふふ」

「だって此処が現実だから」

あれ？（後書き）

あれだけカテゴリがあつて一つも該当しないってのはどうなの
でしようか（・・・）

あんまり続かない予定ですが、予定は未定と言いますしね 黙

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0651c/>

零のクライシス

2010年10月11日10時44分発行